

瀬戸内海から採集されたドロナマコ  
(棘皮動物門, 樹手目, グミモドキ科)

倉持卓司・厚井晶子・長沼 毅

葉山しおさい博物館  
広島大学大学院生物圏科学研究科

## 瀬戸内海から採集されたドロナマコ (棘皮動物門, 樹手目, グミモドキ科)

倉持卓司<sup>1)</sup>・厚井晶子<sup>2)</sup>・長沼 毅<sup>2)\*</sup>

<sup>1)</sup> 葉山しおさい博物館, 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2123-1

<sup>2)</sup> 広島大学大学院生物圏科学研究科, 〒739-8528 広島県東広島市鏡山1-4-4

**要 旨** 北海道礼文島沖を模式産地として記載されたグミモドキ科のドロナマコ *Thyonidium diomedea* (Ohshima, 1915) が, 岡山県沖備讃瀬戸の水深11mの砂泥底より採集された。本種は, これまでに北日本および北アラスカより記録されている。本報告は本種の南限記録となる。

**キーワード**: 樹手目 Dendrochirotea, グミモドキ科 Phyllophoridae, 瀬戸内海 Seto Inland Sea, ドロナマコ *Thyonidium diomedea* (Ohshima, 1915)

---

### 諸 言

ドロナマコ *Thyonidium diomedea* (Ohshima, 1915) は, 北海道礼文島沖を模式産地として記載されたグミモドキ科の一種である (Ohshima, 1915)。本種は北海道礼文島沖, 牡鹿半島, アラスカ, チュクチ海の水深37~220m から記録されている。(Ohshima, 1915; Lambert, 1997)。瀬戸内海より記録されているナマコ類は, 稲葉 (1983) によりまとめられているが, 本種の記録はない。筆者らは, これまでに採集記録のない瀬戸内海より本種を採集したので分布の新たな記録として報告する。

### 試料

*Thyonidium diomedea* (Ohshima, 1915)

採集地 岡山県沖備讃瀬戸 水深11m 砂泥底 (2013年3月11日採集) 2個体

### 記載

体長58.5mm および22.8mm (アルコール固定標本)。体はともに円筒形で, 後端が円錐状に先細る。生時の体色および触手は灰色。管足はイボ状に収縮し, 各歩帯に沿って2列に分布する (Fig. 1)。触手は15本で, 内側に位置する10本は長く, 外側に等間隔に環状に位置する5本が短い。体表には, 底部は円形~楕円形で頂端に棘をもつ櫛の高い櫛状骨片がある (Fig. 2)。この櫛の部分は4柱よりなる。頸部の皮膚には褐色の横縞模様がある。石灰環の放射片は後縁に湾入するが, 後方延長部はなく, 前縁に不揃いの切れ込みをもち, 間放射片は三叉状で後縁が深く湾入する。ポーリ氏嚢は1個, 石管は1個。肛門の周辺に10個の肛疣と5個の肛歯をもつ。

### 比較

クリル諸島沖から記録された *Thyonidium kurilensis* (Levin, 1984) は, 体色が肌色~赤色で, 体表にある櫛状骨片の基部の孔は大きさが不規則で底板の周囲は一定の形をもたず, 周縁部に凹凸があることで本種と区別される。また, オホーツク海の水深130m より採集された *Ekmania cylindricus* (Ohshima, 1915) は, 体色が灰色で, 触手のみが紫黒色になり本種と外部形態が異なることで区別される。五島列島沖の水深200-250m から記録されている *Pseudocucumis tabulatus* (Ohshima, 1915) は, 本種に類似の櫛状骨片をもつが, 櫛状

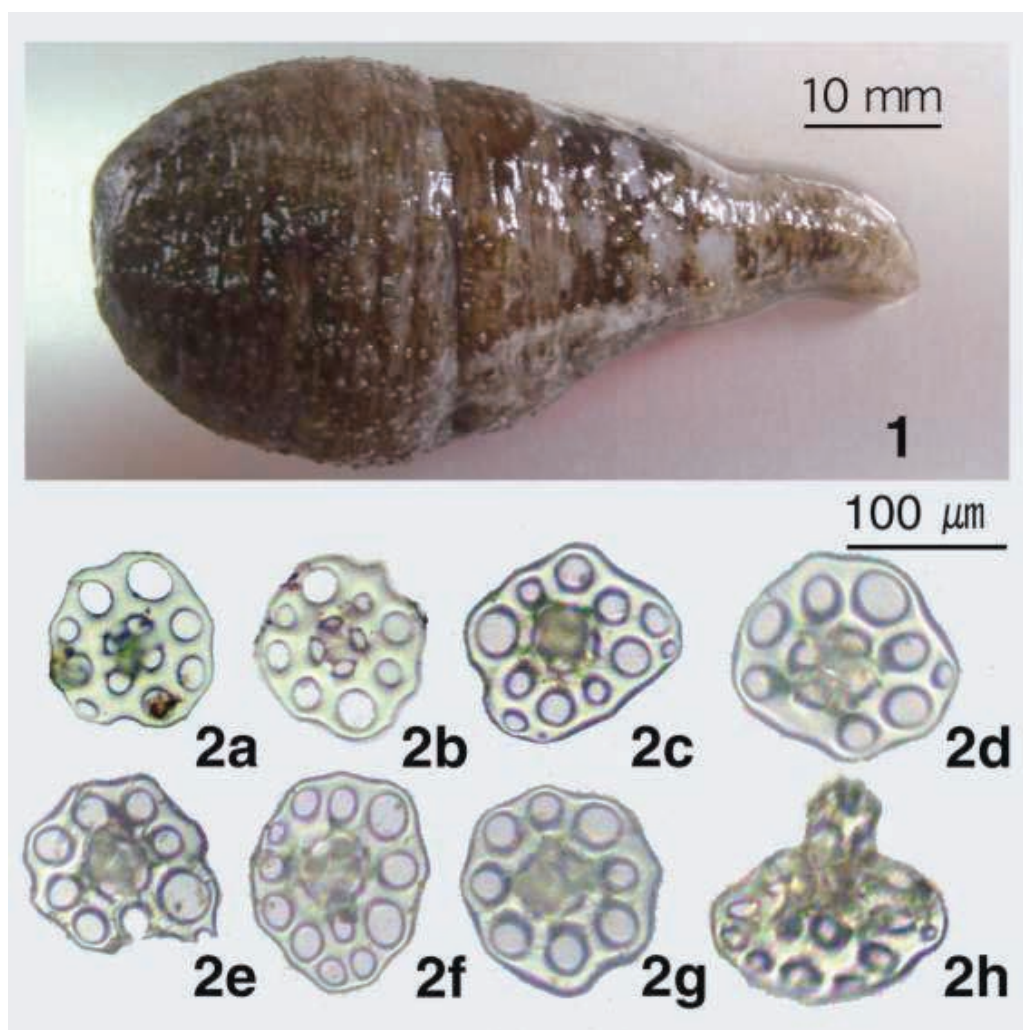


Fig. 1. Whole body image of one of the two specimens of *Thyonidium diomedeeae* (Ohshima, 1915) collected from the Seto Inland Sea, Jpan.

Fig. 2. Spicules of *Thyonidium diomedeeae* (Ohshima, 1915) collected from the Seto Inland Sea, Jpan. Each spicule has a tower-like structure consisting of four pillars.

骨片の底部は膨らみ、底板部に小さい孔をもち、短い5本の触手と長い15本の合計20本の触手をもつことで区別される。

Lambert (1997) によりアラスカ・コディアク島沖からドロナマコとして記録された *Ekmania diomedeeae* (Ohshima, 1915) は、Ohshima (1915) や本報告の瀬戸内海で採集された個体とは、槽状骨片の底部の形状が異なり、別種の可能性が高い。

## 謝 辞

試料採集にあたりご協力いただいた広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の船長中口和光氏をはじめ船員各位、NPO 法人プラントの吉原正敏氏、田辺拓人氏、九州大学大学院農学研究院唐津水産研究センター

の長野直樹氏, 広島大学大学院生物圏科学研究科の柏原克彦氏, 池田正太氏, 広島大学生物生産学部の村瀬良太氏, 西脇 瞳氏に感謝申し上げます。

### 引用文献

- 稲葉明彦. 1983. 瀬戸内海の生物相 I (軟体動物). 広島大学理学部付属向島臨海実験所, 広島: pp. 181.
- Lambert, P., 1997. Sea cucumbers of British columbia, southeast Alaska and Puget sound, *Royal British Columbia museum*, Canada: pp. 165
- Ohshima, H., 1915. Report on the Holothurians Collected by The United States Fisheries Steamer "Albatross" in the Northwestern Pacific During the Summer of 1906: From the Proceedings of the United States. *National Museum, United States National Museum*, **48**: 213-291.

***Thyonidium diomedae* collected from the Seto Inland Sea  
(Echinodermata, Dendrochirotacea, Phyllophoridae)**

Takashi KURAMOCHI<sup>1)</sup>, Akiko KOI<sup>2)</sup> and Takeshi NAGANUMA<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Hayama Shiosai Museum, 2123-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa, 240-0111, Japan

<sup>2)</sup>Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University 1-4-4 Kagamiyama,  
Higashi-Hiroshima, 739-8528, Japan

**Abstract** Off-Rebun Island, Hokkaido, is listed as the type locality of Phyllophoridae *Thyonidium diomedae* (Ohshima, 1915). Two specimens of *Thyonidium diomedae* were collected from sand-and-silt bottom of Off-Okayama, Kibisetu in Seto Inland Sea, at the depth of 11m. Occurrence of the species has been reported only from northern Japan and northern Alaska, and this report revises the southern limit of the species distribution.

**Key words:** Dendrochirotacea, Phyllophoridae, Seto Inland Sea, *Thyonidium diomedae* (Ohshima, 1915)